

置賜地区高校生

「地域と私たちの未来を考える」小論文コンテスト

募 集 要 項

1. 趣 旨 少子高齢化と共に近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も人口が確実に減少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、「地方消滅」さえ懸念されます。様々な要因の一つに、高校生が進学・就職で県外に出て戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。地域と私たちの未来はどうなるのか、2年後に進学・就職を迎える皆さんにとって、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路に進むにしても大事なことです。本コンテストは高校生の皆さんが地域と自分の未来を考える契機になることを願い実施するものです。
2. '18年テーマ 「郷土の未来と私の生き方を考える」
3. 対 象 者 置賜地区高等学校2年生
4. 募集小論文 募集要項の資料編を参考にして、テーマについての各自の考えを1200～1400字にまとめてください。
5. 応 募 先 各高等学校の担当者まで
6. 応 募 締 切 各学校から主催者への提出締切 9月10日(月) 必着
7. 表 彰 最優秀賞1点 優秀賞4点 入選5点 及び副賞
8. 表 彰 式 10月下旬の予定 ホテルモントビュー米沢 (米沢市門東町)
9. 審査委員長 米沢有為会会長 大滝則忠 (元国立国会図書館長)
10. 主催・共催 公益社団法人米沢有為会 学園都市推進協議会
11. 後援・協賛 置賜総合開発協議会 置賜地区高等学校長会 米沢商工会議所 米沢・置賜経済人クラブ 米沢新聞社 公益財団法人近野教育振興会 NCV 米沢信用金庫

置賜地区高校生

「地域と私たちの未来を考える」小論文コンテスト

資料編

はじめに、山形県及び置賜地区の人口の動きを、30年の長期的スパン（資料1）と、2016年時点（資料2）の二つの視点から見てみましょう。

資料1 山形県及び置賜地区市町別の将来推計人口（10年毎）

西暦	2015	2025	2035	2045	人口変化率 '15～'45 (%)
山形県	1,123,891	1,015,910	897,075	768,490	-31.6
米沢市	85,953	77,483	67,817	57,720	-32.8
長井市	27,757	23,918	20,160	16,377	-41.0
南陽市	32,285	29,017	25,494	21,762	-32.6
高畠町	23,882	21,131	18,214	15,115	-36.7
川西町	15,751	12,783	10,148	7,655	-51.4
小国町	7,868	6,059	4,517	3,220	-59.0
白鷹町	14,175	11,918	9,839	7,797	-45.0
飯豊町	7,304	5,956	4,755	3,620	-50.4
置 賜	214,975	188,265	160,944	133,266	-38.0

＜出典 国立社会保障・人口問題研究所＞

置賜地区では、2045年の人口が2015年と比較して38.0%減少します。

資料2 山形県の年齢別移動者の状況

＜2016年（平成28年）山形県の人口と世帯数から＞

○表1 全年齢層の県外転入・転出者数

(人)

	県外転入 [a]		県外転出 [b]		転出超過 [a-b]	
平成28年	14,869	(△115)	18,415	(△415)	△3,546	(△300)

※ () は対前年増減を表す。△表示はマイナス。

「県外転入」は県外からの転入を、「県外転出」は県外への転出を表している。

2016年の本県の県外転入、転出状況は、3,546人の転出超過になっています。

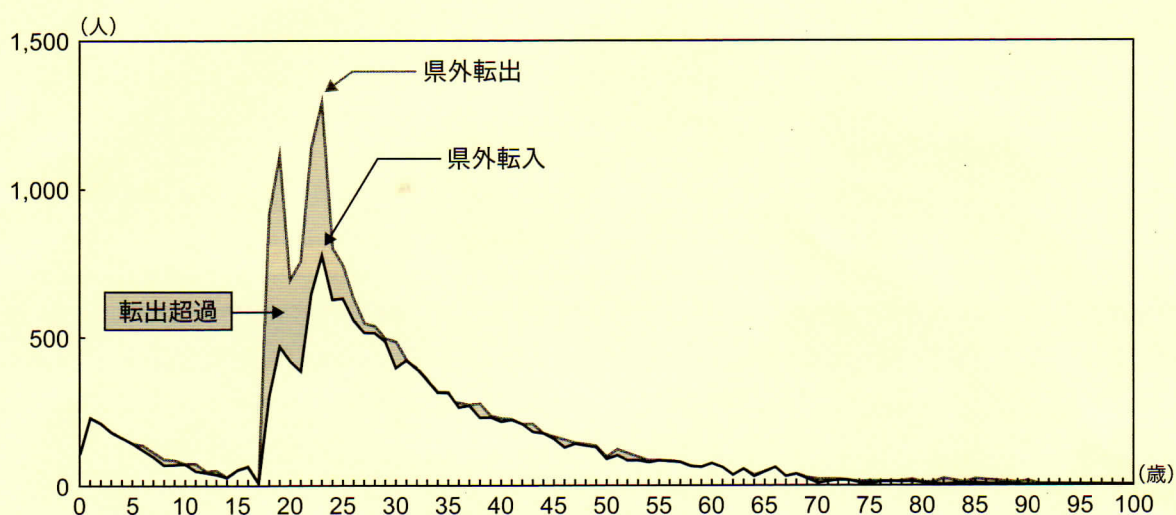
○表2 若年層の県外転入・転出者数

(人)

	県外転入	県外転出	転出超過
18 歳	306	898	△ 592
19 歳	475	1,139	△ 664
20 歳	420	688	△ 268
21 歳	388	755	△ 367
22 歳	654	1,133	△ 479
23 歳	781	1,303	△ 522
24 歳	626	804	△ 178
計	3,650	6,720	△ 3,070

18～24歳の転出超過は3,070人となっており、高校や大学等の卒業や就職を迎える若者の転出超過が多く、県人口減少の大きな要因になっています。下の図からもその様子をはっきりと見てとることができます。

○図 年齢別県外転入・転出者数



<出典 山形県統計企画課>

資料3 山形県の高卒者の県外への進学就職状況

	卒業者数	大学等進学者数 (うち県外)	就職者数 (うち県外)	計 (うち県外)	県外の割合
2015年度 (平成27年度)	10,632名	4,794名 (3,492名)	3,493名 (691名)	8,287名 (4,183名)	39.3%
2016年度 (平成28年度)	10,204名	4,577名 (3,291名)	3,038名 (686名)	7,615名 (3,977名)	39.0%

<出典 山形県統計企画課>

高校卒業者のおよそ4割が進学就職で県外に出ていきます。

人口減少の一因である「若者流出」の状況を統計データで見ましたが、これに歯止めをかけるさまざまな対策が講じられています。最後に、それらの取組を紹介しよう。

資料4 若者定着・若者回帰に向けた県内の諸取組の紹介

事例1 山形県と首都圏大学とのUターン就職促進協定 14大学と協定を結ぶ

山形県では、山形県内の企業情報等の提供、大学内での就職ガイダンスの開催等について、大学等と連携して取り組むことにより、Uターン・Iターン就職の一層の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として実施している。

＜協定締結大学＞東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学、明治大学、国士舘大学、駒澤大学、東洋大学、文教大学、立教大学、帝京大学、帝京大学短期大学、明治学院大学
＜出典 山形県雇用対策課＞

事例2 山形県若者定着奨学金返還支援事業の実施

大学等へ在学の方又は進学予定の方を対象として、県と県内市町村が連携して、奨学金の返還を支援する事業。米沢有為会も市町村枠で実施。平成27年度から平成31年度までの5か年事業（現時点で）。要件は日本学生支援機構の第一種奨学金（無利子）の貸与を受けている方又は受ける予定の方、米沢有為会の奨学生。大学等を卒業後6か月以内に、山形県内に居住かつ就業し、その後3年間継続する見込みの方。

＜出典 山形県産業政策課＞

事例3 山形大学工学部保護者対象の米沢地域産業見学会の実施

米沢商工会議所主催。保護者の方に米沢の産業・企業を知ってもらい、この地で生活する不安を払拭してもらうことによって大学卒業後地元に残り就職する選択を後押ししてもらうことを意図した企画。昨年度は17名参加。今年度は山形大学工学部・米沢栄養大学・米沢女子短期大学の3大学に対象拡大して実施予定。

事例4 各高等学校において地域学習の展開、職場見学・体験、インターンシップの実施

郷土愛を育むとともに、社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成を目指した多様な特色ある取組が行われている。

事例5 高校生就職希望者や就職者に対する地元への人材確保・定着の諸取組

置賜地区雇用対策協議会（二市二町（米沢市・南陽市・高畠町・川西町）の行政機関や諸団体・ハローワークとの緊密な連携のもとに、若年労働力の安定確保を目指す団体）が、模擬面接会や新入社員フォローアップセミナー、新規卒者ビジネスマナー講習会等の諸事業を実施。人材確保・定着に結びついている。